

第1回ミツバチの不足問題に関する有識者会議 配付資料一覧

- 1 第1回ミツバチの不足問題に関する有識者会議議事次第
- 2 ミツバチの不足問題に関する有識者会議委員名簿
- 3 第1回ミツバチの不足問題に関する有識者会議座席表
- 4 資料1 花粉交配用みつばち不足問題の経緯
- 5 資料2 花粉交配用ミツバチの需給調整システムについて
- 6 資料3 花粉交配用ミツバチ安定的確保緊急支援事業
(平成21年度補正予算)パンフレット
- 7 資料4 みつばちの減少に関する緊急調査研究について

第1回ミツバチの不足問題に関する有識者会議
議事次第

1. 日 時

平成21年6月15日（月） 13：30～16：00

2. 場 所

生産局第2・3会議室

（農林水産省本館2階 ドアNo.本218）

3. 議 題

（1）花粉交配用ミツバチの需給調整システムの検証について

（2）今後の調査研究において検討すべき事項等について

（3）その他

4. 委員名簿

（別紙参照）

5. 参考資料

（1）経緯

（2）需給調整システムについて

（3）21年度補正予算パンフレット

（4）緊急対応型調査研究について

ミツバチの不足問題に関する有識者会議委員名簿

(五十音順・敬称略)

うめつ としひこ 梅 津 敏 彦	山形県農林水産部生産技術課長
おおいし としお 大 石 登志雄	福岡県南筑後地域農業改良普及センター参事補佐
おかもと としひで 岡 本 俊 英	三重県農水商工部農畜産室畜産振興グループ主査
かわはら ひでお 川 原 秀 男	社団法人日本養蜂はちみつ協会副会長
きむら きよし 木 村 澄	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 畜産草地研究所家畜育種増殖研究チーム主任研究員
すずき いさお 鈴 木 勲	有限会社クキンビーガーデン養蜂組合代表取締役
たかやま ゆうじろう 高 山 勇治郎	富里市農業協同組合生活部購買資材課課長
たての よしあき 舘 野 義 明	社団法人とちぎ農産物マーケティング協会イチゴ部会長
なかむら じゅん 中 村 純	玉川大学学術研究所教授 ミツバチ科学研究センター主任
まなべ のぼる 眞 鍋 昇	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
みやざき まさひこ 宮 崎 正 彦	長野県農政部園芸畜産課企画幹
よこやま しげる 横 山 繁	アピ株式会社購買部部長兼養蜂部担当部長

第1回ミツバチの不足問題に関する有識者会議 座席表

平成21年6月15日
生産局第2会議室

木 鈴 高 館
村 木 山 野
委 委 委 委
員 員 員 員

川原委員			中村委員
岡本委員			眞鍋委員
大石委員			宮崎委員
梅津委員			横山委員 (今井代理)

北 大 小 田
技 池 振 野 栗 中
術 畜 興 野 栗 参
室 産 興 畜 審 事
長 産 課 産 議 官

花粉交配用みつばち不足問題の経緯

- 平成 19 年秋 豪州からのみつばち(女王蜂)がノゼマ病が動物検疫で検出→11月以降、輸入途絶。(注：政府による輸入停止ではなく、あくまでも業者が検疫条件を満たすものを供給できないことによる輸入途絶。)
- 平成 20 年 6 月 「園芸作物生産における花粉交配用ミツバチの利用について」(園芸課長通知) 発出 (供給確認等を行うよう指導)
- 平成 20 年夏 北海道における大量死の報道 (日本農業新聞)
- 平成 20 年秋 業者からの供給不足の報道 (日本農業新聞)
- 平成 21 年 2 月 「花粉交配用ミツバチの供給不足に対する代替技術の利用について」(生産流通振興課長通知) 発出 (長期利用に向けた飼養管理、クロマルハナバチ利用の検討を指導)
- 平成 21 年 4 月 3 日 大臣記者会見
(大臣発言要旨)
- 産地における不足状況を緊急調査するよう指示
 - 養蜂業界への依頼、新たなダニ駆除用の動物用医薬品の利用普及、他国との家畜衛生条件の締結交渉の加速化
- 平成 21 年 4 月 10 日 大臣記者会見
(大臣発言要旨)
- 21 都県で「現在不足している」との報告
 - 不足の影響を回避するため、人工受粉等の代替措置等の取組をしているが、コスト増の懸念
 - 不足していない県を含め、みつばちの価格が上昇
 - 全都道府県を対象安定供給体制の整備のため、園芸農家のニーズと養蜂家の供給可能量をマッチングさせる需給調整システムを立ち上げ
 - アルゼンチンとの家畜衛生条件協議を加速化
 - 経済対策関連予算において、新たにみつばちの増殖に取り組む園芸産地に対する支援を措置
 - 園芸産地の経営への影響を調査
 - (株)日本政策金融公庫の農林漁業セーフティネット資金の活用、既存予算を活用した経営支援の検討

平成21年4月17日 「花粉交配用ミツバチの不足に伴う産地影響状況調査
について」公表

(調査結果)

○20都道府県から影響が認められるとの報告

○このうち、

- ①16都道府県から生産コストが増加(2千円/10a~10千円/10a)
- ②3都道府県から収量が減少
- ③5都道府県からうまく受粉せず奇形になったいちごの発生
と報告

平成21年4月21日 農林水産省ホームページで情報提供を開始

平成21年5月1日 みつばちの増殖支援対策の公表

(支援内容)

- ①女王蜂及び蜂群増殖に必要な資機材の導入に関する支援
- ②蜜源植物の作付への支援
- ③生産者と養蜂家の連携強化への支援
- ④みつばち利用期間延長技術導入への支援

平成21年5月13日 みつばちの減少に関する緊急調査研究について公募を
開始

平成21年6月1日 みつばちの減少に関する緊急調査研究の課題を決定

(研究課題等)

- 研究課題 我が国養蜂群の健全性の現状調査と健康状態に影響する要因
の解析
- 中核機関 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
畜産草地研究所
- 研究総括者 木村 澄
- 共同機関 国立大学法人名古屋大学

花粉交配用ミツバチの需給調整システムについて

1 目的

ミツバチは、はちみつ等の有用な畜産物の生産のみならず、いちご、メロン等果菜類などの園芸作物生産における花粉交配の手段として用いられる等、省力化を図る上で欠かせないものとなっている。

一昨年以降、女王蜂の輸入停止が続いていることに加え、国内におけるダニ被害等が原因で、働き蜂が予定どおりに確保できない事例が報告されている。このような状況に対応するため、また、今後の園芸作物生産現場におけるミツバチの安定確保を図るためには、各都道府県内において園芸担当部署と畜産担当部署が連携を密にし、ミツバチの需給調整を推進する必要がある。

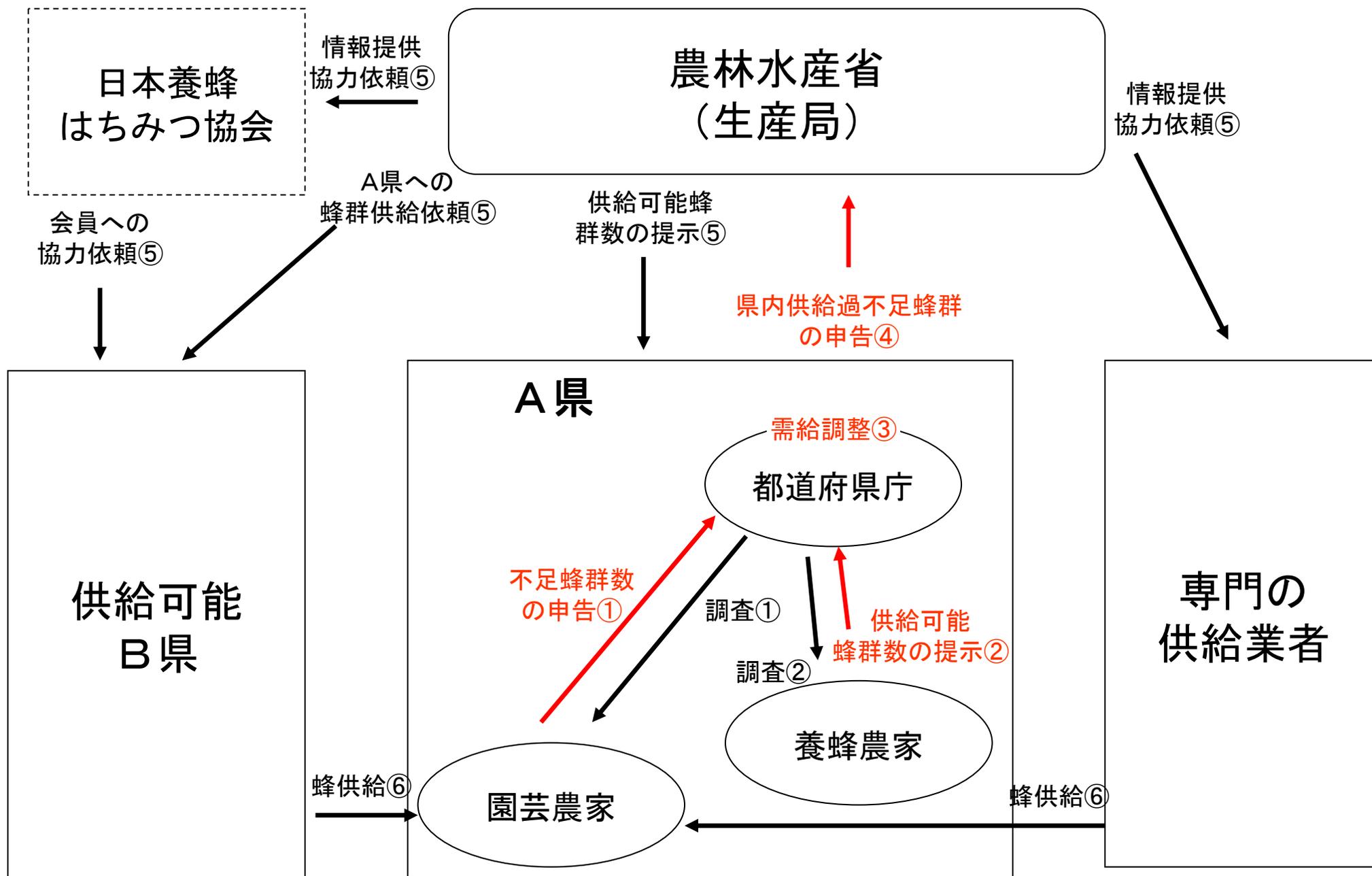
このため、農林水産省では、需給調整システムを立ち上げ、各都道府県における、ミツバチの供給可能蜂群数及び不足蜂群数を調査し、当該都道府県における需給を調整し、それでも、なお不足が生じる場合には、都道府県の範囲を超えた需給の調整が可能となるよう、関係者に対して、必要な情報提供を行うこととした。

2 需給調整の手順（別紙参照）

- ① 各都道府県の園芸担当部署は、農業関係団体等の協力を得つつ、都道府県内の園芸作物現場における花粉交配用ミツバチの不足状況を把握する。
- ② 各都道府県の畜産担当部署は、都道府県養蜂協会等の協力を得つつ、供給可能な花粉交配用ミツバチの蜂群数を把握する。
- ③ 各都道府県は、①及び②の調査結果を基に、まずは、県内での需給調整（調査結果の周知、県内養蜂農家等への協力依頼、県内園芸農家からの問い合わせに対応した供給可能情報の提供等）を実施する。
- ④ ③による県内で需給調整を実施し、その結果により過不足する群数について農林水産省に報告する。
- ⑤ 農林水産省は、都道府県で調整ができない不足分について、花粉交配用ミツバチ供給業者に情報提供するとともに、（社）日本養蜂はちみつ協会への情報提供・協力依頼と併せて、ミツバチの供給余力のある県の情報を不足する県に提供する。
- ⑥ 不足する県は、園芸農家に対し⑤の情報を伝達し、園芸農家によるミツバチの入手を支援する。

需給調整システム（イメージ）

（別紙）



花粉交配用みつばちの不足状況に関する緊急調査（とりまとめ）

平成21年4月10日

生産局生産流通振興課

標記に関し、各都道府県庁及び全農県本部等からの報告内容を取りまとめましたので、お知らせします。

都道府県庁及び全農県本部等の双方から、不足していると報告のあった都県（不足がみられる作物）	都道府県庁から、不足していると報告のあった県（不足がみられる作物）	全農県本部等から、不足していると報告のあった県（不足がみられる作物）
東京都（イチゴ） 神奈川県（スイカ等） 静岡県（イチゴ等） 石川県（スイカ等）	栃木県（ナシ等） 群馬県（イチゴ） 千葉県（スイカ等） 山梨県（イチゴ等） 長野県（リンゴ等） 島根県（イチゴ） 福岡県（ナス） 熊本県（スイカ等） 宮崎県（スイカ等）	山形県（サクランボ） 福島県（イチゴ） 茨城県（メロン等） 三重県（イチゴ） 兵庫県（イチゴ） 岡山県（イチゴ等） 香川県（イチゴ） 鹿児島県（メロン）
4 都県	9 県	8 県
合計 21 都県		

※1 上記全ての県において、不足を回避するための代替策を講じている。

代替策導入の例（主な導入作物）

- (1) クロマルハナバチ（イチゴ）
- (2) 人工受粉（メロン、スイカ、リンゴ、ナシ、サクランボ）
- (3) ローテーション利用（イチゴ）

※2 上記のほか、みつばちが不足していない県も含め複数の県から、みつばちの価格が上昇しているとの報告もあった。

このような支援も行っています。

次の対策も行っているのので、活用して下さい。

① ミツバチの需給調整システムの設置

ミツバチの需給調整が行えるよう、ミツバチを供給できる県と、ミツバチが不足している県の情報を農林水産省のホームページに示しています。

花粉交配用ミツバチ

検索

<http://www.maff.go.jp/j/chikusan/gijutu/mitubati/index.html>

② 融資による支援

ミツバチ不足で経営が悪化した生産者の方々は、運転資金を農林漁業セーフティネット資金により低金利（無利子枠もあり）で借りられます。

対象者は、所得の過半が農業所得の方、粗収益200万円以上の方、認定農業者です。

資金の借入手続きや現在の金利など、詳しくは最寄りの**信用農協連合会**、又は、**(株)日本政策金融公庫フリーコール：0120-926-478**（平日9：00～17：00）、又は、**各公庫支店**までお問い合わせ下さい。

お問い合わせは、お近くの農協、県庁、地方農政局へ

農林水産省	生産局 生産流通振興課	電話03-3502-5958
東北農政局	生産経営流通部 園芸特産課	電話022-221-6207
関東農政局	生産経営流通部 園芸特産課	電話048-740-0440
北陸農政局	生産経営流通部 園芸特産課	電話076-232-4314
東海農政局	生産経営流通部 園芸特産課	電話052-223-4624
近畿農政局	生産経営流通部 園芸特産課	電話075-414-9023
中国四国農政局	生産経営流通部 園芸特産課	電話086-224-9413
九州農政局	生産経営流通部 園芸特産課	電話096-353-7388
内閣府沖縄総合事務局	農林水産部 農畜産振興課	電話098-866-1653
北海道農政事務所	農政推進課	電話011-642-5410

園芸農家の皆様へ！

ミツバチ不足の解決に向けて
支援します

ミツバチが不足して、今年の秋から心配だよ。
養蜂業者も増殖が難しいと言っているし...

ミツバチの増殖を進めて、安心して農産物の生産ができるよう、皆様を応援します。



ミツバチ不足対策で補助が受けられます！

こんな声が寄せられています

ミツバチ不足が今後も続くと、10月からのイチゴの受粉ができるかどうか不安。

導入したミツバチが、すぐ死亡すると、また調達に苦労してしまう。

安心してミツバチを増殖するためには、前もって農薬散布の時期やミツバチの必要量・時期を知りたい。

園芸農家のためにミツバチを増殖したいけど、エサとなる作物が少ない。

このような補助が受けられます。

○蜜源植物の作付けへの支援

例：種子代、地代
50万円かかれば、
50万円を支援します。

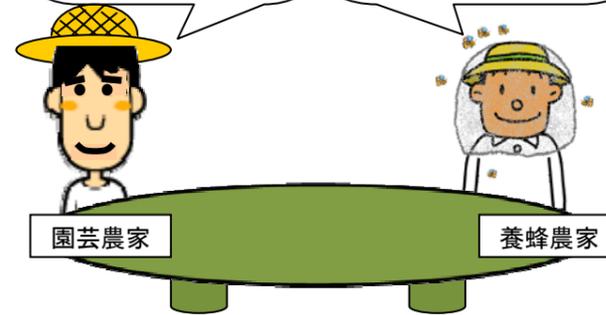


○耕種農家と養蜂農家の連携促進

例：農薬散布時期の調整やミツバチ供給計画の調整のための会議の開催
10万円かかれば、
10万円を支援します。

農薬散布の時期を事前にお知らせします。

11月には100箱、お渡しできると思います。



園芸農家

養蜂農家

○女王蜂増殖機材への支援

例：増殖機材の購入
30万円かかれば、
30万円を支援します。



○ミツバチ延命技術の導入への支援

例：自動給餌装置の購入
10万円かかれば、
10万円を支援します。

エサがいつもあるから、長生きできるよ。



野菜・花き産地高度化緊急支援対策のうち
花粉交配用ミツバチ安定的確保緊急支援事業

《事業の要件》

- 事業実施主体として、市町村、生産者団体（JA、農事組合法人、その他農業者団体など）、園芸農家と契約した養蜂農家が対象となります。
- 1都道府県当たり、上限2,000万円まで国が負担します。

《事業手続きの一般的な流れ》

- 1 まず、最寄りの市町村やJAに相談して下さい。
- 2 市町村やJAで、養蜂農家も交えて、ミツバチのリース・レンタル比率を5ポイント以上増加させる計画を作成して下さい。
- 3 地方農政局などに相談しつつ、事業計画を取りまとめて提出して下さい。

（なお、21年度補正予算が成立することを前提として、前もって実施した取組（ひまわりの播種など）も支援対象となります。）

農林水産技術会議

プレスリリース

平成21年5月13日
農林水産省

「みつばちの減少に関する緊急調査研究」の研究課題の公募について

「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」の「第1回緊急対応型調査研究」の公募を、5月13日(水曜日)から5月26日(火曜日)16時まで(必着)の間に行います。

農林水産省では、農林水産業・食品産業の現場の技術的課題の解決に向けた実用技術の早急な開発を推進するため、提案公募型の「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」を実施しています。

本事業のうち、年度途中の緊急的な課題に迅速かつ的確に対処するため、当該年度内に必要な調査研究を行う「緊急対応型調査研究」について、研究対象を下記のとおり決定し、5月13日(水曜日)から5月26日(火曜日)16時まで(必着)の間、研究課題の募集を行いますので、お知らせいたします。

応募様式、応募に当たっての注意事項等をホームページ(http://www.s.affrc.go.jp/docs/research_fund2009.htm)に掲載していますので必ずお読み下さい。

【今回研究課題の募集を行う研究対象(詳細は別紙のとおり)】

1.みつばちの減少に関する緊急調査研究

[研究開始までの想定されるスケジュール]

- 公募締め切り 5月26日(火曜日) 16時まで(必着)
- 採択課題の決定・公表 6月1日頃(予定)

(採択された場合)

- 研究計画の調整及び契約事務(20日間程度)
- 研究開始 6月中下旬頃(予定)

なお、課題の採択決定後は、研究計画書の作成、契約事務を行うこととなりますが、早期に研究に着手できるよう、ホームページに詳細研究計画書の様式を添付しておりますので、あらかじめ作成の準備をお願いいたします。

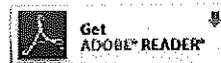
<添付資料>(添付ファイルは別ウインドウで開きます。)

- (別紙)今回募集を行う研究対象(PDF:85KB)

— お問い合わせ先 —

農林水産技術会議事務局研究推進課産学連携室
担当者:産学連携振興班・上崎、中川原、齋藤
代表:03-3502-8111(内線5894)
ダイヤルイン:03-3502-5530
FAX:03-3593-2209

PDF形式のファイルをご覧いただく場合には、Adobe Readerが必要です。Adobe Readerをお持ちでない方は、バナーのリンク先からダウンロードしてください。



「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」の緊急対応型調査研究についての今回募集する研究対象

研究対象番号	研究対象	研究対象の背景と想定される試験研究の概要
1	みつばちの減少に関する緊急調査研究	<p>みつばちの大量死については、平成17年頃から散発的な発生としては見られていたが、昨年、大量死が頻発、オーストラリアからの女王蜂の輸入停止も重なり、生産現場では、本年に入りハウス栽培及び果樹栽培へのみつばちの供給不足が顕在化した。</p> <p>しかしながら、大量死などによるみつばちの減少の原因については、科学的には不明な部分も多く、現段階では有効な対策の検討が困難であり、今後の養蜂業、さらにはハウス栽培などみつばちによる受粉を必要とする園芸業そのものが衰退しかねない状況に直面している。</p> <p>このため、本課題では、</p> <ul style="list-style-type: none">① 受粉用・採蜜用みつばちにおける群の消長の実態の把握② みつばちの健康状態に関する要因の解析 <p>を実施することにより、みつばちの放飼・管理技術の改善等、養蜂業被害対策の早期確立に資する。</p>

上記研究対象に係る調査研究については、本年度内に終了し、所期の成果を出すことが求められます。
なお、研究費については、基本的に1千万円を上限としています。

農林水産技術会議

プレスリリース

平成21年6月1日
農林水産省

「みつばちの減少に関する緊急調査研究」の研究課題の決定について

平成21年度「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」の「第1回緊急対応型調査研究」(「みつばちの減少に関する緊急調査研究」)について、採択課題を別添のとおり決定しました。

概要

農林水産省では、農林水産業・食品産業の現場の技術的課題の解決に向けた実用技術の早急な開発を推進するため、提案公募型の「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」を実施しています。

経緯

今般、年度途中で緊急に生じた技術的課題に対応するため、当該年度内に必要な調査研究を行う「緊急対応型調査研究」について研究課題の募集を行い、外部専門家等による審査の結果、新たに別添の課題(「我が国養蜂群の健全性の現状調査と健康状態に影響する要因の解析」)を採択しましたのでお知らせいたします。

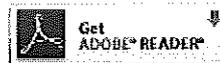
<添付資料>(添付ファイルは別ウィンドウで開きます。)

- 別添(PDF:58KB)

— お問い合わせ先 —

農林水産技術会議事務局研究推進課産学連携室
担当者:産学連携振興班・上崎、中川原、齋藤
代表:03-3502-8111(内線5894)
ダイヤルイン:03-3502-5530
FAX:03-3593-2209

PDF形式のファイルをご覧いただく場合には、Adobe Readerが必要です。Adobe Readerをお持ちでない方は、バナーのリンク先からダウンロードしてください。



[ページトップへ](#)

Copyright:2008 Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries of Japan

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1 農林水産省 農林水産技術会議事務局 電話:03-3502-8111(代表) 03-3501-9886(直通)

農林水産省

○緊急対応型調査研究(「みつばちの減少に関する緊急調査研究」)

課題 番号	課題名	中核機関	研究総括者	共同機関	研究 期間 (年)	研究概要
21102	我が国養蜂群の健全性の現状調査と健康状態に影響する要因の解析	独立行政法人 農業・食品産業 技術総合研究 機構(畜産草地 研究所)	木村 澄	国立大学法人名古屋大学	1	ミツバチ群の消長を定時的に調査し、併せて働き蜂・花粉などのサンプリングを行う。農薬・疫学的解析と消長データを比較し、原因究明に繋がるクリティカルなポイントを抽出する。また、管理状態が異なる蜂群で、状態を表す指標(ストレス関連遺伝子の発現、女王の産卵性など)等を調査する。